

科目名	運動障害性構音障害Ⅱ			授業の種類	演習	講師名	
授業回数	15 回	時間数	30 時間	2 単位	必修・選択	必修	担当学年 時期 2年 後期
【授業の目的・ねらい】 構音障害の講義・演習を通じて、正常の呼吸・発声・構音運動の理解と神経・筋病変に起因する構音障害の特徴、その発現メカニズムについて学ぶ。							
【実務者経験】 赤穂中央病院、姫路聖マリア病院等にて、言語聴覚士として機能訓練事業・小児発達訓練事業に従事。							
【授業全体の内容の概要】 各構音障害について総合的に理解し、訓練方法および発話補助手段についても理解する							
【授業終了時の達成課題（到達目標）】 構音障害の概要を把握、理解し、臨床場面での適切な検査・評価等できるようになる 国家試験に即した問題を解くことができる							
回数	講義内容						準備物(教材)
1	ディサースリアの定義と分類、病変、運動障害のタイプを理解できる。						
2	運動の要素、運動麻痺、運動失調、不随運動について理解できる。						
3	反射、原因疾患、脳血管障害、球麻痺、感覚障害について理解できる。						
4	関連症候について理解できる。						
5	構音の評価（1）タイプ別の呼吸・発声・構音特徴を理解できる。						CDデッキ
6	構音の評価（2）構音検査、発声発語器官検査について理解できる。						舌圧子
7	構音の評価（3）プロソディー検査、随意運動検査について理解できる。						
8	構音の評価（4）機能検査、反射検査、その他の検査について理解できる。						
9	構音検査演習（検査の手順を説明し行なうことができる）						AMSD
10	リハビリテーションと医学的治療について理解できる。						
11	訓練：呼吸、発声、構音各側面に対するアプローチを理解できる。						
12	評価・問題点の抽出・訓練プログラム立案ができる。						
13	訓練プログラム立案（2）検証及び修正ができる。						
14	コミュニケーション補償、AAC、装具・補助機器などについて理解できる。						
15	まとめ 復習を通して知識の整理ができる。						
定期筆記試験							
【使用教科書・教材・参考書】 『ディサースリアの基礎と臨床第3巻臨床実用編』							
【準備学習・時間外学習】 適宜予習、復習を行う							
【単位認定の方法及び基準（試験やレポート評価基準など）】 試験の結果を100点満点として成績を評価する。 試験は定期試験のみ実施とし、 60点以上の場合に科目を認定する。							